

5) 会期中のこと

日本語OSであったのでいささか不安であったが、デモンストレーターから不具合が報告される事はなかった。ただ、事前に申し出のなかったアプリケーションソフトウェアが要ると当日になって言われて手配するのに苦慮した。デモンストレーション会場の横にセッション会場が配置されていたので、見学者も適度に入っていた。

インターネットの方は、合計3台の計算機がほぼ休む事なく利用されていた。ほとんどはメールの送受信に使われていたが、自分のWebページを開いて他の研究者に説明する光景も見られた。とくに、セッション間の休み時間には待ち行列ができる程の盛況ぶり、準備を担当した者の一人として嬉しい限りであった。また、持参したファイルが壊れてしまい困っていたデモンストレーターが、自国の計算機から不足分をftpで取り直して事なきを得た例もあった。これなどは、ネットワークの威力を実感した出来事であった。



<インターネット利用状況>

今回の一連の準備と運営を通じて、インターネットが広く普及し、研究者にはなくてはならない道具になっている事を感じると共に、今後、どのような集会を開催する場合でもインターネットへの配慮が必要である事を強く認識した。

一時はどうなることかと思った計算機まわりの整備だったが、関係者諸氏の多大なご協力により、何とか乗り切る事ができホッとしている。くり返しになるが、内田氏と丸山助教授にはネットワークの運用面から機材の貸し出し、設定まで緻密で多大な協力を頂いた。また、NTTやレンタル会社の機転の効く対応にも多いに助けられた。何も判らない手探りの状態から始めて、

最後には待ち遠しそうに計算機が空くのを待つ利用者の列を見る事が出来て大変に満足している。改めて、関係各位に感謝の意を表しこの報告を終わることにする。最後に教訓の一つ：“習うより慣れる、黒子の役割忘れずに”。

盛況であったIFCS-96チュートリアル・セッション
大隅 昇(統計数理研究所)

大会後、東京に会場を移して、チュートリアル・セッションが4月2, 3日に社団法人日本マーケティング協会セミナールームで開催された。これのプログラム編成や組織化については、北海道大学の佐藤義治、水田正弘のお二人に多大のご苦勞をおかけした。スピーカーの人選等は概ね決まっていたものの、その後のやり取り(招待状発送、日程、予稿集他のガイドライン策定、度重なるファクシミリとE-mailによる情報交換等)については、すべてお二人にお手数をおかけした。また、共催をお引き受けいただいた(社)日本マーケティング協会ならびに協会事務局の渡邊氏には多大なご配慮をいただき、事前のパブリシティ活動、現場の設営等のすべてをお願いすることとなった。この紙面を借りて厚く御礼したい。開催日程がIFCS-96大会後で、しかも年度始めの4月ということ、事前のアナウンス発送が遅れたことなどもあり、これまた綱渡りのようなスケジュールとなった。

当初は、果たしてどの程度の参加者数が期待できるか大変に不安であったが、幸いにも多数の参加者を得た(約80名)。またセミナーの内容も示唆的なものが多く、きわめて有意義なセミナーであった。加えて逐次通訳が付いたこともあって(あまり良いシステムではないが)、概ね好評のうちに終えることができた。セミナーの内容は以下の通りである。

<テーマ：第5回国際分類学会議，チュートリアル・セッション>

第1日目(1996年4月2日)

行動科学における多次元尺度構成法の動向

(Multidimensional Scaling in Behavioral Science)

- 1) Two-way Multidimensional Scaling (Phipps Arabie)
- 2) Three-way Multidimensional Scaling (Douglas J. Carroll)
- 3) A Unified Theory of Biplots John C. (Gower)
- 4) Multidimensional Scaling in Behavioral Science (Willem J. Heiser)

第2日目(1996年4月3日)

分類法・クラスター化法の最前線の話

(State of the Art in Classification and Clustering)

- 1) Probabilistic Models and Statistical Methods in Classification (Hans H. Bock)
- 2) The Natural Random Number Generator (Yadiah Dodge)

(*)これについては、ISI Reviewに論文あり。Dodge, Y.: A natural random number generator, ISI

Review, 64, 3, 329-344.

- 3) Random Dendrograms with Applications to Classifiability Testing (Bernard Van Cutsem)
- 4) Classification and Clustering (Gavin J.S. Ross)

上記にあるように、セッションの第1日目は、主に多次元尺度構成に関連した内容であり、第2日目はクラスター化法に関わる課題であった。各発表ともに基礎的、実務家向けの内容ではあったが、企業の方々のみならず研究機関や大学関係者の参加も多かった。

なお、セッション終了後に、講師ならびに参加者(希望者)による懇親会も開かれ、これには奥野忠一先生、矢島SPC委員長、佐藤・水田両オーガナイザをはじめ多くの方々を迎えて、全日空ホテル(赤坂)での開催となった。

(注)当日配布された予稿集に若干の残部があります。希望者は分類学会事務局までご連絡ください。

論文集の発刊

IFCS-96大会の記録として、論文集発刊を行うこととなっている。今回の発刊は、IFCS-93(パリ大会)時の論文集に続いて、ドイツ・シュプリングァーから発刊されているシリーズ「Studies in Classification, Data Analysis, and Knowledge Organization」の一冊として、Springer-Verlag Tokyoから刊行されることとなった。このシリーズは、Management Editors, Editorial Boardが決められているが、これとは別に、IFCS-96論文集の発刊に際しての本書の編集陣を、IFCS-93大会にならって日本側で設けることとなった。また、論文集の表題は、IFCS-96のテーマであった「Data Science, Classification and Related Methods」である。

こうして林大会組織委員長をチーフとする編集委員会を編成した(下記)。IFCS-96大会で発表された演題のうち、論文集に掲載希望として投稿のあったペーパーを対象に、編集委員会からお願いした査読委員のメンバーによる査読を行い、招待発表者も含めて85編が掲載となった。

Managing Editors

H.H. Bock, Aachen
O. Opitz, Augsburg
M. Schader, Mannheim

Editorial Board

W.H.E. Day, St. John's
E. Diday, Paris
A. Ferligoj, Ljubljana
W. Gaul, Karlsruhe
J.C. Gower, Milton Keynes
D.J. Hand, Milton Keynes
P. Ihm, Marburg
J. Meulman, Leiden
S. Nishisato, Toronto

F.J. Radermacher, Ulm
R. Wille, Darmstadt

以上が、このシリーズのManagement Editors, Editorial Boardである。これとは別にIFCS-93大会にならって以下の編集委員を組織した。

Editors

Chikio Hayashi (Chief Editor)
Keiji Yajima
H.H. Bock
(Managing Editorsとの接点として)
Noboru Ohsumi
Yutaka Tanaka
Yasumasa Baba

なお、このEditorsとは別に、査読を円滑に進めるためにLocal Editorial Boardを以下のように設けた。

Local Editorial Board

Chikio Hayashi
Keiji Yajima
Noboru Ohsumi
Yutaka Tanaka
Yasumasa Baba
Tadashi Imaizumi
Atsuhiko Hayashi
Shoichi Ueda

また論文集の発刊は、本年末となる予定である。体裁は、約790ページ、一巻(予価:14,000円)となる予定である。この紙面を借りて、本書の発刊にご尽力いただいた各投稿者諸氏、編集委員メンバー、それに出版費についてご支援いただいた多くの企業の方々に厚く謝意を表したい。

IFCS-96大会関連情報として

1) メッセージ

神戸市長から、IFCS-96大会への祝辞メッセージをいただいた。また、海外からとして、Sokal教授他からのメッセージを受け取った。

2) 松蔭高校

IFCS-96の会議期間中、ある高校の放送クラブが取材に来ておりました。これについて、大会後に以下のようなお礼状とうれしい案内を頂きましたので、ここにご報告します。

「先日は、取材させていただきありがとうございました。番組では、開会式の様子を使わせてもらいました。この番組をNHK杯全国高校放送コンテストに出した結果、全国四位となることができました。ご協力頂き、ありがとうございました。」(松蔭放送委員会 代表・大畑久美)
通常総会記録

第13回議事録（平成7年度）

日 時：平成7年12月22日（金），17：15～17：45
場 所：統計数理研究所 新館研修室
出席者：石塚隆男，今泉忠，上田尚一，大隅昇，
大津起夫，酒井清六，佐藤美佳，佐藤義
治，高根芳雄，立浪忍，田中豊，長坂健
二，奈良繁雄，林篤裕，林知己夫，馬場
康維，三野大来，水田正弘，宮原英夫，
矢島敬二（以上20名，敬称略）

< 議事 >

1. 新会長挨拶
林知己夫新会長から，分類学会の新しい展開・
方向を探りたいとの抱負が述べられた．また，
IFCS-96の開催をひかえて一層の協力が要請され
た．
2. 議長の選出
議長の選出を行い，佐藤義治会員を選出した．
なお，38名の会員からの委任状が事務局に届い
たことの確認を行った．
3. 平成6年度事業報告（案）および決算報告（案）
について
今泉庶務幹事から資料にしたがって事業報告
（案），および決算報告（案）が説明され，了承
された．また，会計監査報告がなされた．
4. 平成7年度事業計画（案）および予算（案）につ
いて
大隅幹事長より資料にしたがって事業計画（案）
が説明された．また，今泉庶務幹事から予算
（案）が説明された．なお，総会に先立って運営
委員で検討するところであるが，時間的な制約
から書状で了承を得たことが報告された．
5. IFCS関連事項の報告
来年3月に開催されるIFCS-96について，林会長
から状況説明や進捗状況等について説明がなされ
た．
6. その他
IFCS NewsLetterについて
矢島IFCS NewsLetter 編集長から，ニューズ
レターの編集に関して助言や要望があれば要
望を寄せていただきたいとの依頼がなされ
た．
(記録：林篤裕)

運営委員会記録

第1回議事録（平成7年・8年度）

日 時：平成7年9月11日（月），17時05分～18時
10分
場 所：統計数理研究所・新館特別会議室
出席者：林知己夫（新会長），上田尚一（前会長），
今泉忠，大隅昇，林篤裕，馬場康維，矢
島敬二（以上7名，敬称略）

< 議事 >

1. 新会長挨拶
平成7・8年度の会長に信任された林知己夫氏か
ら，IFCS-96に向けての協力要請や学会の運営等

について挨拶があった．

2. 役員について
林会長より運営委員・会計監事の重複選出に関
して，どちらかにすべきとの見解が示され，会
計幹事を務めることとした．なお，このような
事態が発生することは選出手順の関係で仕方な
いことであるが，今後は配慮することにした．
3. 新幹事長の選出
新幹事長の選出を行い，大隅氏（統計数理研究
所）を新幹事長に選出した．
4. 新幹事会幹事の承認
林会長から幹事会幹事候補の説明があり，幹事
会の構成を次のように承認した．
幹事長：大隅昇氏（統計数理研究所），庶務幹
事：今泉忠氏（多摩大学），広報幹事：林篤裕氏
（現大学入試センター）
5. 平成7年度通常総会について
1）総会の議題，2）平成6年度事業報告ならびに
決算報告書（案）の討議，3）平成7年度事業計
画ならびに予算書（案）について審議をおこな
った結果，全員の承認を得た．
6. 国際分類学会連合（IFCS）関連事項
IFCSに分担金として\$ 200の送金を行うことを確
認した．
7. 新入会員等の承認
入退会者の承認を行った．
8. その他
平成7年度の総会および研究報告会の開催日程を
「12月22日（金）」とすることにした．
(記録：林篤裕)

幹事会記録

第10回議事録（平成5・6年度）

日 時：平成7年3月7日13時30分～14時20分
場 所：統計数理研究所馬場研究室
出席者：上田尚一（会長），今泉忠，馬場康維，
林篤裕（以上4名）

< 議事 >

1. 選挙委員の選出
来年度に向けて会長をはじめ，幹事長，運営委
員の選挙を行う必要があるため，現運営委員会
で承認いただくべく幹事会として2名の選挙管理
委員候補を推薦した．
2. 選挙手順について
会長，幹事長，運営委員の選出方法について確
認した．
3. 運営経費について
従来より慢性的な赤字であり，今年度について
も運営経費が不足している．どの程度の赤字な
のかを今泉庶務幹事が調べ，決算書類を作るこ
とにした．なお，この処理方法については，会
長と幹事長に一任することにした．
4. ニュースレターについて
これの発刊方式を検討した．
5. ネットワーク・サーバ

分類学会のネットワーク・サーバを多摩大学で準備していることの説明が今泉庶務幹事からあった。

第11回議事録（平成5・6年度）

日 時：平成7年6月19日15：55～17：05

場 所：統計数理研究所 馬場研究室

出席者：上田尚一（会長）今泉忠，馬場康維，
林篤裕（以上4名）

< 議事 >

1. 役員の交代について

役員交代が遅れているので，今後の学会運営について計画を立てた。

2. 今年度のシンポジウムと総会について

IFCS-96の準備等で多忙であるので，今年はシンポジウムと研究報告会をまとめて12月に行う事にした。ただ，例年シンポジウム開催時に行っていた総会を周知せずに12月まで延ばすのは問題があるので，会員にこの事を文書で通知する事にした。

3. IFCS-96の周知徹底について

（記録：林篤裕）

会計報告（決算および予算）

報告が遅れてしまいましたが，平成6年度，平成7年度の会計報告を以下に記します。事務局の怠慢から情報伝達が遅れておりますことお詫びします。なお，平成8年度決算ならびに平成9年度予算につきましては，会報21号に掲載いたします。

第12回研究報告会記録

これも記録報告が遅れてしまい、申し訳ない限りですが、ここに記載いたします。なお、第13回研究報告会記録（平成9年3月27日開催）は、会報21号に記載します。

第12回研究報告会記録

日時：平成7年12月22日（金）、13時00分～17時10分

場所：統計数理研究所 新館研修室

参加者数：34名

各講演が行われ、活発かつ有意義な討論が行われた。

藤沢生命表と他の生命表との関連

矢島敬二（東京理科大学経営学部）

Rikitaro Fujisawa who published the first Japanese life table in 1888 had been England and Germany from 1883 to 1887. Similarity of ten overseas life tables which were available for Fujisawa with his table shows the major dependency with English Life Table by William Far released in 1854 and also with German 23 Insurance Companies table published in 1883. Nevertheless in Japan there were higher infant mortality and also remarkable tuberculosis death rate in youth for a long time.

枝分れを含むパーシャル・ランキングの解析

三野大来（順天堂大学）

パーシャル・ランキングは、 s 個のものから任意の m 個を取り出し、パネル各人にその都度1から m まで順位をつけさせるもので、フル・ランキングを含む。順位づけられたものを書き並べる過程で、その並びが必ずしも1直線状とならず枝分かれつまり分岐する場合がある。タイがその1例で、同順位のもの複数個あることになる。ここでは、パーシャル・ランキングにおいて枝分かれのある場合のモデル選択およびモデルの適合性についてふれ、最後に応用例について報告する。

3-wayデータのクラスタリングについて

佐藤美佳（北海道武蔵女子短期大学）

佐藤義治（北海道大学工学部）

3-wayデータに対するクラスタリング問題は多基準最適化問題とみなすことができる。多基準最適化問題における実行可能解はパレート最適解として知られている。従来の多基準クラスタリングにおいて、パレート最適解を求めるためには、組合せ問題を解かねばならず、それ自体困難な問題である。しかし、多基準ファジィクラスタリングでは、パレート最適クラスターは比較的容易に求められることを示した。さらに、人工的な3-wayデータを用いて、パレート最適クラスターの性質を検討し、子供の成長パターンの分類に基づく歯科の矯正治療に関するデータの数値実験例を示した。

巡回セールスマン問題における遺伝的アルゴリズムとクラスター分析の融合

高宮雄一（法政大学大学院工学研究科）

長坂健二（法政大学工学部）

巡回セールスマン問題（Traveling Salesman Problem; 以下TSPと略記）とは、複数の都市が指定されていて、セールスマンがある都市を起点としすべての都市を1度ずつ訪問して、再び起点となる都市へ戻る時に、セールスマンが旅行する距離を最小にする巡回経路を求める問題のことである。

TSPに対する解法としては、様々なアルゴリズムが提案されているが、最近注目されているものとして、遺伝的アルゴリズム（Genetic Algorithm; 以下GAと略記）がある。GAは生物の進化の過程を工学的にモデル化したものである。本稿では、大規模都市数のTSPに対して、まずクラスター手法により都市をあらかじめグループ化し、次に、各グループ内でGAにより最適な経路を求め、それを接続して全体に拡張するという2段階のTSPの解法を提案する。以上のアルゴリズムを人工的なデータであるが都市数1000のTSPに対して適応し、シミュレーションを行った。

Prologによる線形モデル探索の実現

大津起夫（北海道大学文学部）

計算機環境の向上に伴い、データ解析に用いられるモデルは次第に複雑化しつつある。これらのモデルの応用においては、事前の知識を組織的に統計モデルに反映させる方法、および複雑な概念を表現しまた操作するための方法を考案することが重要である。本報告では、事前情報を表現するための枠組として「隣接集合」の概念を提案し、Prolog言語によるその操作とこれらを利用した分析例について紹介した。線形モデルにおけるトポロジカルな制約を伴うベイズ推定およびカテゴリー統合範囲の制約例の2つを例として取り上げた。

Latent Class DEDICOM

Yoshio Takane（McGill University）

Henk. A. L. Kiers（University of Groningen）

移動表をとらえる確率的DEDICOMモデルを提案する。このモデルは観測された推移確率を潜在移動表と潜在クラスから顕在クラスへの推移確率によって説明する。モデルは観測された移動表に見られる非対称性を潜在移動表の非対称性によって説明する。このモデルは特殊な制約のついた潜在クラスモデルの特別の場合ともDEDICOMモデルの特別の場合とも考えられる。パラメータの推定はパラメータの一意性を得るため最大ペナルティ尤度法（MPL）によって行う。EMアルゴリズムをMPL推定のために拡張した。提案された方法の用法を説明するため応用例を示した。

データの科学とは何か

林知己夫（統計数理研究所）

データの科学は、データにより現象を解析しようとする目的の下に、どのようにデータをとるか、いかにデータを収集し、いかにデータを解析するかの方法的成果及びその結果を編むまでに関与するすべてのプロセスをも含むものである。さらに、上記目的達成のための研究の方法論（ストラテジー）をも併せ含むものである。この考え方を示すと共に、具体的な例として意識の国際比較のあり方、及び国民性調査の分析について述べた。

混合性結合組織病（MCTD）のクラスター分析

宮原英夫（北里大学医療衛生学部）

白鷹増男（北里大学医学部）

混合性結合組織病（MCTD）304例を対象に、クラスター分析を施行して、多彩な症候を呈する症例の集合体ともいえるMCTDが、さらにいくつかのサブグループに細分できるかどうかを調べた。ウオード法やk-means法を適用し、6、7群のサブグループへの分類を試みたところ、各グループの構成メンバーや、臨床的特徴が、初期配置の影響を強く受けて、分析の度に大きく変動し、一定のサブグループを定義できなかった。しかし、分類結果の臨床的特徴を個別に調べてみると、MCTDのサブグループ化のヒントを与えてくれる場合が認められた。

唇裂口蓋裂患者における外科矯正判定基準の統計的評価-borderline caseについて

大塚純正（昭和大学歯学部）

今村一信（昭和大学歯学部）

大森史枝（昭和大学歯学部）

柴崎好伸（昭和大学歯学部）

大隅昇（統計数理研究所）

口蓋裂患者の咬合異常の改善が、歯科矯正治療単独で可能か、あるいは外科手術を併用しなければならないか、その判断を早期に下すことは容易ではない。今回、治療が両者のいずれになるか明確となっていない、いわゆるborderline caseの早期判定の可能性について統計的手法を用いて検討した。被験者は初診時（混合歯列前期）に反対咬合を有する片側性唇顎口蓋裂の患者で、これらを矯正治療に外科手術を併用したもの（OPE群）と矯正治療単独で終了できたもの（Non-OPE群）に分類し、側方頭部X線規格写真を用いて顎顔面の形態評価を行った。その結果、男女について早期における両群の判定に有効と思われる形態的な特徴の抽出に興味ある知見を得た。

情報・知の分類に関する基本的考察

石塚隆男（亜細亜大学経営学部）

本論文では、情報あるいは知とは何であるのかについて過去の文献の中で提案されている情報・知の分類カテゴリーをサーベイし、その潮流を概観するとともに今後の課題について考察した。その結果、

実体として情報をとらえるのではなく、むしろ、関係論的にとらえることが近年の情報概念を形成していることが判明した。今後、人間の行動に関わる本質的な情報や知の生成メカニズムを解明し、知の創造や意思決定・行動に際して合理的かつ効率的な方法を見出すことが必要であり、アフォーダンス、自己言及性、カオスによる自己組織化のモデリング等の可能性について考察した。

IFCS-96大会関連報告

IFCS-96大会開催に関連して開催された準備委員会の主要な討議事項のみを以下に要約する（会報の前号記載以降の開催分）。

第10回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成7年1月19日（木）、14時05分～16時30分

場 所：統計数理研究所 特別会議室

出席者：林知己夫（IFCS-96大会組織委員長）、今泉忠、大隅昇、林篤裕、馬場康維、矢島敬二（以上6名、敬称略）

< 議事 >

1. 進捗日程の確認と対処
2. ISPC関連現状報告
3. セッション・オーガナイザーの選考
4. ペーパー作成要領のガイドラインについて
5. セッションの運営方法について
6. 第2回アナウンスメント案文作成について
7. 大会参加登録について
8. 協賛依頼状について
9. IFCSニュースレターの取り扱いについて
10. 募金活動について
11. 平成7年兵庫県南部地震の影響について
12. ネットワークによる発信について
13. ポスター作成について

第11回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成7年3月7日（火）、11時05分～13時15分

場 所：統計数理研究所 特別会議室

出席者：林知己夫（IFCS-96大会組織委員長）、今泉忠、上田尚一、大隅昇、田中豊、馬場康維、林篤裕、矢島敬二（以上8名、敬称略）

< 議事 >

議事録のまとめ方/日程の変更/大会会場の検討/SPC関連事項/基調講演/招待セッション/論文作成要領ガイドライン/第2回アナウンスメント/関連学会への協力依頼/ポスター作成等

第12回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成7年3月7日（火）、15時10分～17時40分

場 所：統計数理研究所 会議室

出席者：林知己夫（IFCS-96大会組織委員長）；

大隅昇，田中豊，馬場康維，矢島敬二
(以上5名，五十音順，敬称略)

< 議事 >

1. SPC関連事項として以下を討議した
招待講演者候補の確定/招待セッション・オーガナイザーの検討/論文作成要領のガイドライン(案)の検討他
2. その他，以下の事項を討議した．
第2回アナウンスメントの案文について/関連学会への協力依頼/募金活動の進め方/チュートリアル，コンピュータ・デモ，ポスターセッション等/チュートリアル・セッション/コンピュータ・デモンストレーション/ポスターセッション/アナウンスメントによる紹介/役割分担について
3. その他
1) ポスター作成について
2) 会計処理について

第13回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成7年5月9日(火)，14時10分～16時30分

場 所：統計数理研究所 会議室

出席者：林知己夫(IFCS-96大会組織委員長)；
今泉忠，大隅昇，田中豊，林篤裕，
馬場康維(以上6名，五十音順，敬称略)

< 議事 >

1. 前回議事の確認を行った．
2. その他，以下の事項を討議した．
SPC関連事項/第2回アナウンスメント関連/関連学会への協力依頼/募金活動の進捗状況について/Springer Verlag Tokyoとの交渉について/チュートリアル・セッションについて/コンピュータ・デモンストレーションについて/神戸のコンベンションセンターからの案内

第14回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成7年7月25日(火)，18時40分～20時00分

場 所：大分・東洋ホテルロビー

出席者：林知己夫(IFCS-96大会組織委員長)，今泉忠，上田尚一，大隅昇，林篤裕，馬場康維，水田正弘，矢島敬二(以上8名，敬称略)

< 議事 >

1. SPC関連事項の確認を行った．
2. その他，以下の事項を討議した．
第2回アナウンスメントについて/関連学会の協力要請について/募金活動の進捗状況について/論文集の発行について/チュートリアル・セッションの進め方/コンピュータ・デモンストレーション/ポスターセッション
3. その他
IFCSニュースレター/IFCS-96のWWWサーバの

立ち上げについて/IFCS事務局からの\$2500の借用について

第15回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成7年9月11日(月)，14時10分～16時20分

場 所：統計数理研究所・特別会議室

出席者：林知己夫(IFCS-96大会組織委員長)，大隅昇，林篤裕，馬場康維，矢島敬二(以上5名，敬称略)

< 議事 >

1. SPC関連事項の確認を行った．
2. その他，以下の事項を討議した．
第2回アナウンスメントについて/IFCS事務局からの連絡について/募金活動の進捗状況について/論文集の発行について/チュートリアル・セッションの進め方/コンピュータ・デモンストレーション/ポスターセッション
3. その他
行動計量学会の会場で資料を配付する件/JCS会報/Webサーバが有効に活用されている件

第16回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成7年11月2日(木)，14時10分～16時10分

場 所：統計数理研究所・特別会議室

出席者：林知己夫(IFCS-96大会組織委員長)，今泉忠，大隅昇，林篤裕，馬場康維，矢島敬二(以上6名，敬称略)

< 議事 >

1. SPC関連事項の確認を行った．
2. その他，以下の事項を討議した．
第3回アナウンスメントについて/IFCS事務局からの連絡について/募金活動の進捗状況について/論文集の発行について/チュートリアル・セッションの進め方/コンピュータ・デモンストレーション/ポスターセッション
3. その他
Webサーバーのリンクの件/IFCS NewsletterへのWeb URL掲載の件/日本の紹介をWebに掲載する件
4. 会場について
5. 阪神大震災に対するチャリティの考慮を行うこと

第17回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成7年12月22日(金)，18時00分～20時00分

場 所：統計数理研究所・特別会議室

出席者：林知己夫(IFCS-96大会組織委員長)，今泉忠，大隅昇，佐藤義治，田中豊，林篤裕，馬場康維，水田正弘，矢島敬二(以上9名，敬称略)

< 議事 >

1. 議事録確認および進捗日程の確認

2. SPC関連事項の確認を行った。
3. その他，以下の事項を討議した。
第3回アナウンスメントについて/IFCS会長，事務局からの連絡/募金活動の進捗状況について/論文集の発行について/コンピュータ・デモンストレーション/ポスターセッション/ウェルカム・レセプション/チュートリアル・セッションの進め方/会場設営について

第18回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成8年02月08日（木），16時00分～18時00分

場 所：統計数理研究所・会議室

出席者：林知己夫（IFCS-96大会組織委員長），今泉忠，大隅昇，佐藤義治，田中豊，林篤裕，馬場康維（以上7名，敬称略）

< 議事 >

以下の事項を討議，確認した。

第3回アナウンスメントの内容について/IFCS会長，事務局からの連絡について/論文集の発行関連事項検討/コンピュータ・デモンストレーション，ポスターセッション，チュートリアル・セッション/会場設営，会場運営について検討/経費見積りの件/阪神大震災に対するチャリティの考慮

第19回，20回（最終回）は，大会当日の運営方法についての具体的な検討であったので，以下の情報に留める。

第19回IFCS-96大会準備委員会記録

場 所：統計数理研究所・会議室

出席者：林知己夫（IFCS-96大会組織委員長），今泉忠，大隅昇，佐藤義治，田中豊，馬場康維；瀧澤好，穴澤葉子（以上2名ICS）（以上8名，敬称略）

主な議題，検討事項は以下の通り。

1. 第3回アナウンスメントの確認
第3回アナウンスメントの確認，発送作業の報告/第4回（最終プログラム）アナウンスメントについての最終調整
2. 進捗状況の確認
全体の確認，現状の説明/コンピュータ・デモンストレーション/ポスター・セッションの確認
3. 運営方針の確認，アイシーエス企画作成「運営のマニュアル」による説明と内容確認
4. 各種Instructionsの確認
座長用，発表者用インストラクションを作成内容を確認した。
5. 予稿集の体裁，作成進捗状況の確認。
すでに，原稿をアイシーエス企画に引き渡し，整理・印刷準備に入っている。印刷の完了は大会開催ぎりぎりとなる模様。
6. 発表者の最終ペーパー提出方法，期限の再調整をおこない，これを変更することとした。
7. チュートリアル・セッションの，参加申込書と

リーフレット作成，その配布状況について，開催場所，会場他の情報報告等がなされた。

第20回IFCS-96大会準備委員会記録

日 時：平成8年6月21日（金），15時00分～17時00分

場 所：統計数理研究所・会議室

出席者：林知己夫（IFCS-96大会組織委員長），大隅昇，林篤裕（以上3名，敬称略）

< 議事 >

以下の議題につき討議した。大会後に開催された最終会合であり，主に大会報告を行った。また，論文集発刊に向けての基本事項を要約しこれを確認した。とくに，論文集はSpringer-Verlag Tokyoから発刊することを確認した。

1. IFCS-96大会報告
大会開催時の経過報告/会計決算報告
2. 論文集発刊についての予定
編集陣営の構成案の検討/出版契約ならびにCopyrights transferの件/発刊に係る費用の確保，その手段について今後の事務処理について

他学会だより

IFCS-98ローマ大会

1998年7月21日～24日，Roma，Italy

3rd Conference on Statistical Computing of the Asian Regional Section（ARS）

1998年12月2日～4日，Manila，Philippines

NACS研究報告会'98，Bristol，England

COMPSTAT

1998年8月24日～28日，英国

JAPT1998

1998年2月19日～21日，Nice，France（「テキストデータの統計解析」研究集会）

なお，IFCS-98ローマ大会については，皆様のお手元に第1回アナウンスメントをお送りいたしました。今後もIFCS-98大会事務局から連絡が入り次第，順次会員の皆様にお届けします。

日本学術会議関係報告，統計学研究連絡委員会報告

日本学術会議会員の藤井光昭氏より，以下のご報告が来ておりますので，ご案内いたします。遅れてしまいましたが，記録として記載いたします。

日本学術会議報告1996年6月13日，日本学術会議第4部会会員，藤井光昭

1. 総会等
 - ・日本学術会議第123回総会は平成8年4月17日に開催され，「脳科学研究の推進について（勧告）」が可決された。また運営審議会附置会員推薦手続き検討委員会が廃止され，関連研究連絡委員会等指定委員会が設置されることになった。

- ・ 日本学術会議の建物を横浜市みなとみらい21地区32街区へ移転することについては、財政的にほとんど無理な状況で、凍結せざるを得ない状況のようである。
- ・ 日本学術会議が共催できる国際会議が従来の6件から8件にふえた。

2. 第16期第4回統計学研究連絡委員会（平成8年4月30日）

委員長より報告事項として、1) 国際会議代表派遣候補として第18回国際生物学会への派遣を申請したが、不採用であった 2) 新しい方式の数理科学国際研究所設置準備小委員会では、附属施設として実現する案を検討中で、統計数理研究所は無理の判断をしている 3) 統計関連学会の懇談会ではインターネットによるニュースの速報等を検討している、その他。

審議は“大学における各分野での統計の教育とその体制”について、以前の議論をふまえ、医学部での教育、阪大での状況、文献の紹介等を中心に検討を行った。

終了後統計関連学会選出の委員のみで、統計関連学会の懇談会で検討されている

1) 共通名簿の作成、2) インターネットによるニュースの速報、3) 事務局の問題について意見を聞いてきてもらうこととした。

1996年8月2日開催

1. 第4部夏季部会

1996年7月2日（火）～3日（水）に岐阜県の東濃研究学園都市で開催され、多くの議題が審議されたが、ここでは統計学に関連したものを中心に報告する。

- ・ 研究連絡委員会の見直しについて
研究連絡委員会の数が多いこと（特に第4部）と、新しい研究連絡委員会の設置に対して柔軟に対応出来るようにということで、第1常置委員会から検討用資料が提出された。これによると「統計学」については、数学研究連絡委員会のもとの統計学専門委員会とされている。これは不都合と考え、早速独立した研究連絡委員会にしてほしい旨修正要望書を出した。第4部関係ではこの案に対して、基本的な考え方からして不満が多く、かなりの意見がだされると思われる。
- ・ 国立計算機科学高等研究所の設立について
情報学研究連絡委員会を中心に構想が検討され、第4部会でも今回を含めて数回検討した。他の機関の協力等の可能性もあり、何らかの形で実現性もあり、第4部会では更に進めることとした。

- ・ 「資料の紙質の劣化についての要望（案）」、「著作物再版制度の在り問題について（要望）（案）」、「パラダイムの転換を中心とする学術の動向について」の検討等。

統計学研究連絡委員会、1996年7月22日（月）開催

第16期第7回会合を1996年7月22日（月）に開催した。

- ・ 統計関連学会の懇談会で検討をすすめている共同事業としての、インターネットによるニュースの速報、共通名簿、事務局の共同運営の可能性等、について報告があった。
- ・ 統計学の研究教育体制の整備
大学における各分野での統計の教育とその体制についていくつかの案をもとに検討した。各分野が統計の授業に何を期待しているかの調査の必要性や統計数値の意味を教育することの必要性等の意見が出された。次に後継者養成に関して、地域ごとに単位互換制度を活用する方式等の提案をもとに検討した。また統計手法を用いる各分野の研究者等へのコンサルテーション組織の確立の必要性の意見等が出された。

日本学術会議関係報告、日本学術会議第4部会員、藤井光昭

1. 総会・部会・常置委員会等（関連するものを中心に）

日本学術会議総会、部会、常置委員会等が平成8年10月15日（火）18日（金）に開催された。総会においては、(1) 資料の資質劣化の対策について（要望）（劣化の調査とマイクロフィルム化等）、(2) 規則の一部改正（日本学術会議会員の推薦手続きに関するもので、学協会の現状から一部の締切日を遅らせること）等が採択され、(3) 「著作物再版制度の存廃問題について」は長時間討議の結果、政府部内において総合的な政策調整をしてほしいことと、協議内容の公開、学術書の出版条件の改善等について会長声明の形で発表することとした。また、「計算機科学の推進について」（研究所の設立要望）、「将来計画」、「研究者の養成・確保と教育」、「大学教員の任期制の導入について」等について自由討議を行った。

第4部会においては、研究連絡委員会の見直し案にかなりの時間がさかれた。全体の定数が決められていて、新しい分野の研究連絡委員会がつかれないこと等によるものであるが、研連の再編成案（この案については、統計学が数学研連の専門委にされている等かなり問題点が多く、全体の考え方や個々の案に第4部内でもかなり異議が出されている）や、一律にある割合で研連委員を減らす案等が出されている。

第5常置委員会では、総会にはかった議題の他、「研究情報ネットワークを利用した学術研究の促進のために」をまとめ、第4部、第5部等の意見も聞いた

上で最終案をまとめた。ここでは、統計関連学会の懇談会で一つの学会から出された要望も、“学協会の情報発信のための支援体制の必要性”の形で入れられている。対外報告の形で発表される予定。

統計学研究連絡委員会

予算の関係で年間3回しか開催できず、本年度の第3回目は12月2日に開催の予定。

統計関連学会の懇談会では、

(1) インターネットによるニュース等の速報の試行を実行しており、その整備を検討している。

(皆様のご利用を期待している。ホームページは <http://sunyht2.ism.ac.jp/> である。ぜひご覧ください。またご投稿ください。)

(2) 一つの学会が中心になって、事務局の共同運営の可能性を具体的に検討しはじめている。

事務局から

お詫びとお知らせ

IFCS-96大会の事後処理、それにその論文集発刊に向けての諸作業、とJCSスタッフのキャパシティをはるかに越えるジョブを抱え、結果として会報発行等の会員諸氏への対応が疎かになってしまいました。IFCS-96論文集は予想を越える多数の投稿をいただき、当初は700ページの予定が、これをはるかに越えて790ページ余の分厚いものとなります。なお、論文集発刊時には、改めて会員諸氏のご案内をお送りいたしますが、それまでに事務局宛にご質問いただければ、現在分かる範囲で情報提供をいたします。

会費納入のお願い

平成9年度の会費の納入をお願いいたします。既にお手元に会費納入のご案内をお送りいたし、多くの会員からお振り込みをいただいておりますが、未納の方はお手数ですがよろしくをお願いいたします。

寄稿のお願い

JCSニュースレターへの会員の皆様の寄稿をお願いいたします。国内外の学会に参加した際の印象記や研究会の予定等、会員に知らせたいことなど、広く募集しております。

Webページのオープンに向けて

藤井光昭先生の報告にもありますように、統計研究関連学会に共通のWebページのプロトタイプがオープンし、これに日本統計学会、日本計算機統計学会他がWebページをリンクし公開を開始しております。本学会も現在ホームページの公開に向けて準備中ですが、今しばらく時間を要する予定です。公開が決まりましたら、会報でお知らせいたします。

また、北米分類学会(CSNA)ならびにIFCS Newsletterにつきましては、下記のURLにアクセスしていただきますと参照できますので、お試ください。とくに、CSNAについては、S. Sclove氏が研究会、ニュースレター等の公開を行っておりますのでご覧

ください。この他、ドイツ分類学会(GfKI)他のURLもあげておきます。

IFCS NewsletterのURL:

<http://www.ms.kuki.sut.ac.jp/KMSLab/yajima/IFCS-newsletter/>

IFCS-98ローマ大会のURL:

<http://www.Pow2.sta.uniroma1.it/~ifcs98>

CSNAのURL: <http://www.Pitt.edu/~csna/>

GfKIのURL: <http://www.gfki.de>

COMPSTAT98のURL:

<http://www.stats.bris.ac.uk/compstat/>

日本行動計量学会欧文誌の論文投稿

この案内が届いております。別紙として添付しましたのでご覧下さい。

<この会報についての問い合わせ先>

〒106 東京都港区南麻布4-6-7

統計数理研究所 気付

「日本分類学会」事務局

電話: 03-5421-8741

ファクシミリ: 03-5421-8796

(ファクシミリご利用の場合は「分類学会」、林なおみ宛と明記願います)

E-mailアドレス: hayashi@rd.dnc.ac.jp

(林篤裕、大学入試センター: 広報担当幹事)

ohsumi@ism.ac.jp

(大隅昇、統計数理研究所: 幹事長)